

# 神の集会への受け入れ

— 聖書はどう語っているか —

W・バンティング

Reception to  
God's Assembly

W. Bunting

# 神の集会への受け入れ

—— 聖書はどう語っているか ——

W・バンティング

「すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい」。

(I テサロニケ五・21)

「だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります」。

(ヨハネ七・17)

## 目次

|                   |    |
|-------------------|----|
| 神の集会への受け入れ        | 3  |
| 前置き               | 5  |
| パリサイ主義的傾向や党派心の危険性 | 5  |
| 聖書以外の規則を作り出す危険性   | 7  |
| 私たちの理由            | 10 |
| 一、初めて集会を訪れた人の場合   | 10 |
| 二、友人を招く場合         | 12 |
| 三、たまにしか来ない信者      | 16 |
| 四、まちがった教えを持ち込む信者  | 19 |
| 五、受け入れは常に集会へ      | 22 |
| 誤った信仰             | 27 |
| 家族としての集会?         | 27 |

|                      |    |
|----------------------|----|
| 罪にならないこと.....        | 29 |
| 聖書に書いてないからという理由..... | 31 |
| 宦官の場合                |    |
| アポロの場合               |    |
| トロアスに集会があつたか？        |    |
| ただ一つの交わり.....        | 35 |
| 決まった形はない.....        | 39 |
| 推薦状について.....         | 43 |
| 有名な働き人の場合.....       | 45 |
| 提案.....              | 48 |
| 集会への愛と忠誠.....        | 48 |
| 賢明で信仰深い長老たち.....     | 49 |
| サタンのささやき.....        | 51 |
| 聖書に帰れ.....           | 52 |
| 神のくださる報酬.....        | 55 |

## 神の集会への受け入れ

クリスチャンをどのような形で集会へ受け入れるかという問題は、ときどき論争的になります。

「キリストの御名を告白する者は、たとえ神のことば（たとえばバプテスマについて）に従う意志を  
確認できなくても、また、非聖書的なキリスト教組織に属している人であっても、例外なく主の晩餐  
に迎えるべきである」と強く主張する人がいます。交わりの土台はキリストにある「いのち」にあず  
かっているかどうかですから、そのいのちを内に持っていると告白する者は、その生活が道徳的に清  
く、基本的な教理に照らし合わせて健全であれば、ひとり残らずパン裂きに受け入れるべきだと主張  
するのです。

この考えを唱える人は、「これに反することを行っている信者は非聖書的であって、その厳格さが  
集会への神の祝福を妨げている」と断言します。彼らは私たちに「心を柔軟にし、集会の門戸を開放  
して、すべての信者を受け入れよ」と要求します。

私たちはこの小冊子に、この意見に賛成できない理由を述べました。同時に、この問題について聖  
書がどう教えているかということ、私たちの確信に基づいて書き記したいと思います。主がこの小

冊子を用いてくださいますように。このやっかいな問題に悩まされている信者の心に、平安が与えられますように。そして、「私たちの間ですでに確信されている」真理をしっかり自分のものにできますように、お祈りいたします。

## 前置き

知恵のないことや誤ったことについて書きますと、信者の間に誤解や悪意が生じますので、ちょっと一言、この書物の内容について前置きいたします。

### パリサイ主義的傾向や党派心の危険性

私たちは、パリサイ主義的な傾向や党派心が危険であることはよく承知しています。まずみなさんに知っていただきたいのは、この問題について私たちと異なった考えを持っている信者の方々の誠実さや敬虔な信仰を、私たちは心から認めているということです。昔も今も、「開放された食卓（すべての信者にパンを裂かせること）」を主張している多くの方々は、疑いもなく立派な霊的な信者です。「集会」以外の信者の中にも私たちより優れた信者が大勢おられます。私たちは彼らと、個人的な信仰や福音伝道への熱意をとにも分かち合うこともできます。自分を何か偉い者と誤解して、「私たちが信者である」などと思ひ込むなら、それはラオデキヤ精神（黙示録三・17）というべきです。神は、このような肉の性質から来る自負心を一蹴されます。他人を見下したパリサイ人の高慢心は、



キリストの教えや模範とは相いれないものです（ルカ一八・11）。この冊子をお読みになった方が、このようなうぬぼれを起こされないよう切に祈ります。党派心も同様に、「七つの金の燭台の間を歩く方」（黙示録二・1）が忌み嫌われることです。私たちは、外面的な宗派とならないように注意すると同時に、心に党派心を抱くことの危険性にも十分に注意すべきです。聖書の一部分だけを強調したり、たった一つの教理に片寄ったりすることなく、神の真理全体をバランスよく把握しなければなりません。私たちは、すべての神の子に霊的な愛を注ぐべきです。また私たちは、（もし可能ならば）できるかぎり多くの聖書的なキリストチャンたちと交わり励まし合うべきです。

このように、愛がキリストチャン生活の最高の要因であり、動機であり、推進力であることに私たちは心から同意します。しかし、このたった一つの側面だけにこだわり続けている信者に、ぜひ思い出していただきたいのです。愛は「真理を喜ぶ」（イコリント一三・6）ことでもあり、また「神を愛するとは、神の命令を守ること」（Iヨハネ五・3）でもあるということ。「すべての聖徒を愛する」ということは「すべての宗派を認め受け入れる」ということではありません。以下の聖句に命じられた「分離」は、結果的には宗派心を助長してしまう、などと誤解しないでください（ローマ一六・17、エペソ五・11、IIテサロニケ三・6、IIテモテ三・5、黙示録一八・4など）。そうではなく、この「分離」を実行することによって、集会への信者の受け入れ方について警告した神の教え（使徒九・26、

IIヨハネ10)に従うことになるのです。

今日、至る所でこれらの命令を無視する傾向が見受けられます。それがクリスチャン全体のあかしの妨げたり、台無しにしたりしています。「集会」の存在そのものが、党派心に対する一つの抗議を意味しています。この事実を多くの人が理解しないのは実に悲しむべきことです。「集会」の起こりは、パンを裂くために毎日曜日に集まったことでした。人間的な考えから作り出された宗教的組織や方式と、私たちのやり方は異なっていました。みことばの光によって、そのことが次第に明らかになっていったのです。これは単純に最初の原理へ戻ることであり、後世の「ケズウィック・コンベンション」などは根本的に異なるものです。聖書が教える最高の原理に忠実に従うために、あらゆる代価を払おうとしている信者がいます。そのような信者の考えを曲解して、しかも宗派の中にどっぷりつかって党派心を助長している人自身が、「彼らは党派心の強い集まりだ」などと語るのは、何とも皮肉なことではありませんか。

### 聖書以外の規則を作り出す危険性

第一にすべきことを忠実に実行する熱心さは大切です。同時に、聖書に書かれていない規則を、人間の手で勝手に作らないよう注意しなければなりません。私たちには、一方の極端から他方の極端に